

早期栽培の水稻種子生産における漏生イネ発生防止のための 収穫後管理

利用対象：水稻採種生産者、普及指導員

水稻採種ほどは収穫後、再生稻（ひこばえ）を稔実させないことが重要です。

（特徴）

- ① 早期栽培の水稻では収穫後の再生稻（ひこばえ）の稔実粒が翌年の漏生イネの主な発生源となります。
- ② 再生稻の稔実粒は黄熟始期になると発芽能力を有するようになることから、本作の収穫後40日頃までには再生稻を除去する必要があります（図1）。
- ③ 稲わらの腐熟促進や病虫害防除の観点から、収穫後の管理は浅耕処理を基本としますが、圃場条件が不良で耕起に入れない場合、収穫後20～30日にモア処理や非選択性除草剤処理を再生稻の稔実粒生産を防止するために行います（図2）。



図1 収穫時期と再生稻の出穂始期および黄熟始期の関係

注)※黄熟始期に至らず

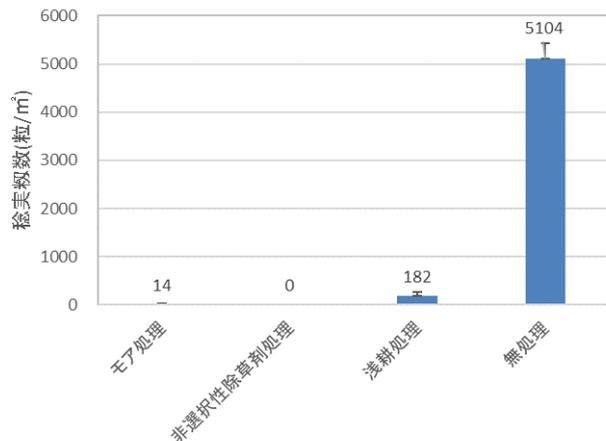


図2 収穫後の管理と再生稻の稔実粒生産
注) 図中の数値は実数

収穫時期: 8月20日

（利用場面と留意点）

○モア処理や非選択性除草剤処理を行った場合も圃場条件が良くなり次第、浅耕処理を行います。

お問い合わせ先	伊賀農業研究室 中央農業改良普及センター	中山幸則 内山裕介	電話 0595-37-0211 電話 0598-42-6323
参考になる資料	https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm (三重農研HP)		